



田
安部 阿部 阿部 阿部
部 部 部 部
文

阿部

内閣文庫		
五二一	三六〇八	和
架	冊	書
架	冊	類

396

内閣文庫		
番號	和	36088
冊數	211 (164)	
函號	156	17

田
譜
亥

安部
安部
阿部
阿部

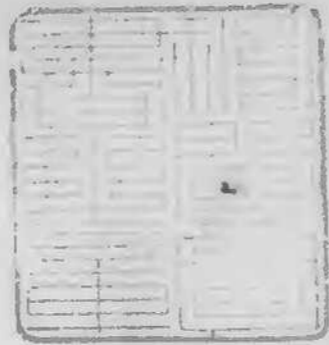
阿久澤

二百十一冊の内

庫文内	
三六〇八	和
二二	書
一六	冊
一	
一	

396

内閣文庫	
番號	和 36083
冊數	211 (164)
函號	155 17



滋野姓

高子石

安部

家次

在內三行
連清

文德天皇御宇丹波守水尾

貞備親王御宇出雲守大藏元

丹波守信家男



安部信家

百三行

皇承和元年七月廿七日

平承和元年七月廿七日

葉

信由

安政五年所 卷之三

元文五年冬 補正 卷之三
三月廿九日 奉 同日 奉

信理

卷之三
信政三男

延享元年 四月 廿二日 奉
十月 廿九日 奉

信百

延享二年 奉
平衣

延享二年 四月 廿二日 奉
二年 六月 廿七日 奉
七月 廿二日 奉
二年 三月 廿九日 奉

△ 平衣 奉

志○同○甲○子○末○年○一○月○八○日○北○國○厚○澤
川○海○河○用○西○水○也○永○二○年○年○上○月○大○日
大○地○日○分○代○同○八○中○年○日○日○日○日○日
社○春○使○年○苗河○龍○奉○許○同○八○月○十○日○河○字
山○法○地○の同○九○子○子○川○分○先○延○也

存○未○位○政○所○所○初○也○の廣○師○時○の美○
二○者○十○月○九○日○苗大○階○海○城○改○校○同七○未
年○八○月○五○日○の揚○字○河○用○同八○
上○月○九○日○柱○合○存○同八○中○子○同上○字

渡○渡○院○政○所○所○初○也○の廣○師○時○の美○
收○元○年○年○日○月○十○日○同七○未
亥○字○九○月○十○日○仙○洞○附○同十○月○十○日○
乙○位○下○の同○字○子○同上○字
依○同八○
久○同上○字
浪○同上○字
日○月○十○日○
仙○洞○分○十○

中興... 高千石

信成

明和七年... 九月... 十月... 十一月...

常定院...

如教大...

信成

元禄... 元申... 八月...

△同日九月八日
解渴

成子十有月方大坂山月代の御立平十月
大坂方死早二条口衣祥雲素信長御徳院

信興

如部半所 岩之丞 玄部

高永天子多閑女月有日無御合の討六百石
其方江所信興(分知)の正享二世多九月十日
采權臣の同之重年七月十日死平二条口
寺之森

信盈

初信者 在系 玄部 改任圓山

如部名陣 無返 小寺

延享三庚子十月二日家給○重曆二万石
二月十九日山書院敷の同に成平六日在坂
所月代○同年七月八日形時の同に成平六日在坂
二万石正月十日侍友の同に成平六日在坂
付品暇の同に成平六日在坂
元辰子七月十日在坂

大踏益城段和段。同日、為平二月廿七日病

死。同日二月廿七日病。同日七未

其立花頼朝と長照の子

信首 海部主簿 孝子 尤系

同七年二月廿七日病。同日七未

口門五年正月十日
飯形上院日記

同年八月廿七日病。同日九月廿日
野馬と初日。寛政二戊子二月廿七日
同日九月初七日病。同日十月廿七日病
同日七月初七日病。同日七月廿七日病
同日十月十日病。同日十月廿七日病
同日十一月廿七日病

信編

海部主簿

寛政二年八月廿七日 二男也領
寛政十年年三月十日 初見

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

常憲院給式滋成姓

了六百石

女部

家改丸内托子
九角三引

女部大系元吉六代女部小十房位方字

信平

女部可成部

寛永四年正月五日 初見 六百石 同日書院

二百年二月十八日 書院番 同日九年 存

十四日 初見 存 同日九年 存

実母於治右馬守信房三男

信半

安政六年

實母於治右馬守信房三男 九辰年八月廿二日家終。○同十九

高子九月廿九日中興所番。○寛保二四年

十月七日病死。○寛延二己亥二月廿五日書院

者。○安永六年九月廿二日書院。○寛延二己亥二月廿五日書院

○同子十月廿九日死。○同子十月廿九日死。

信興

安政六年

安永八年正月廿六日家終。○天保七年
八月十日死。○同子十月廿九日死。

信以

安政六年

天保七年十一月廿七日家終。

高子十月廿九日

1

最右院教訓代

滋野性

高千石

安部

家紋

丸角三行
連珠
丸内花系

若狭丹波守信之次男

信厚

安部丹波守

助九郎 色江号

延宝六年辛酉月方石石知。正書後友

○天和元年改有書久能山 所交正徳後出書信

○貞享元年二月廿三日公致政
其所。自宣旨之宣年正月十日正書後友

組改。布衣。元禄己未年正月親自出席番

以

天保八年申年十一月廿五日
二月廿一日病免。享保八年七月廿一日
六月廿日死回与享保八年七月廿一日

信行

安政保元
信行

天保三年九月廿五日
八月廿六日相商番。同年十月廿日
小性組居者享保元年七月廿日

戊午三月廿八日死年七歲回与

信方

安政保元
信方

享保十八年三月廿日
二月廿九日病免
正月廿日病免

大細之教大の上院時
正月廿日使番。回与

享保九年三月廿日

○同平九月十九日

申年八月十日方大改回月代。同日百年

元前自白濁。其水二已年十月九日北平

九歲回与三森

信平

其初九所。今人所。之稅

流江被流

明和二年七月十八日初九。其水元年九月
廿五日。其水元年二月廿五日。其水元年

○同三年一駿府五与
三三六八能山而坂也書信
印用

同大申年正月日之。其水元年九月

二其年十月十九日初九。其水元年

十月十九日初九

高平石

信廣

其初九所

其初九所

夫以八申年十月十日初九。其水元年

十一月十日初九。其水元年十月十日初九

院番。同公存。十一月十日初九

人献漢家漢代 漢野姓

之三〇倭

本部

家後 九月十九日

本館大蔵之全書係本館抄本与信藏之

本館印本之痕

貞信

大缺院殿(在) 此書三百卷 本館蔵之

四月廿六日午七時或行掃法親師院

藥

信經

安政圖書

権守了

永應二己亥春婚。寛文三己亥年十一月十九日、上皇院番。元禄十己亥年二月廿六日、麻布深尾寺に葬。

信重

安政圖書

元禄六年七月十日、若子。同十二年七月

十日家治。高永。若子。二月廿六日、若子。六月十九日、若子。寛保三年六月廿六日、若子。若子。若子。若子。

信實

安政圖書

享保元年八月廿六日、若子。同六年十一月廿七日、若子。同九年十月廿九日、若子。同十二年九月廿九日、若子。同十六年八月廿九日、若子。同二十年七月廿九日、若子。

信知

武部大助 教馬

貞保平神子少乃自家流。寛文元年九月廿方為丸米性組。宝曆元未年七月廿方一統小當清。の初元申子士可當死二千九取回りよ森

信長

安部助世所 教子 公彦

宝曆五年寅月廿次男取願
の初元申年因士可乃方教流の天明に
原多士可乃初人の河原巳年九月海
米性組の之改之五年因有十音毎有
筋師成し何射何射^{向土}の因^{向土}未
音小全原佐才。の九月廿分^{向土}夫物
上須河原^{向土}

信長

[Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side]

楊口印發

滋野姓

之六百四拾石

安部

家致

九連法
九内三引

安部新傳与信盛口男

信改

安部新傳

家致

正保二年正月六日甲府 長松殿
重信字信盛信盛口男
子信内一人以書云信盛口男
信盛口男以信盛口廣本三書在楊口

此敵古くは此書に於て其の旨を傳へ

三つ又百石

七松乃反

永徳元年七月十日

長子百石

行年

ちとせとるきふのいめ

子代

下御分り

在清方母の元文元年二月十日

奉る後同日卯年二月十日

言及丹波守信春二男

其幼少計

信世

七百石月六日依傍

元文二年三月十日

是年四月七日

元文二年七月十日

信美

美安被丹後信之男
如波之水 二流

元禄永日美子太郎○栲田出殿永宗性○元
禄十寅子十月廿九死回与上森

美安被丹後信之男

安被丹次

又信

三年一

一信

此
元禄

元禄九子年十月廿九栲田出殿永宗性○
○元禄七子年十月廿九栲田出殿永宗性○
○元禄七子年十月廿九栲田出殿永宗性○
○元禄七子年十月廿九栲田出殿永宗性○

十月廿九栲田出殿永宗性○

元禄七子年十月廿九栲田出殿永宗性○

元禄七子年十月廿九栲田出殿永宗性○

元禄七子年十月廿九栲田出殿永宗性○

元禄七子年十月廿九栲田出殿永宗性○

元禄七子年十月廿九栲田出殿永宗性○

元禄七子年十月廿九栲田出殿永宗性○

元禄七子年十月廿九栲田出殿永宗性○

元禄七子年十月廿九栲田出殿永宗性○

元禄七年十月廿九日栲田出殿永宗性○

○明和記亥年八月日...
亦...
亦...
亦...

信門

書...
書...

書...

寛保二酉年九月十日...
九月十日...
院番...
申年...
申年...
申年...

○國...
死...
死...

恩信

書...
書...

寛政三亥年十月...
八月...
何...
何...
何...

一五〇寛政六年二月廿五日壬子為正統
元年中里法用原為少々高石寛

高石寛

養有院御代 源野姓

高石

安部

家紋 丸内三引
連珠

安部元志之流 安部拾得信盛
又男

信秀

始信

安部信

義

寛文二年三月廿一日分知の小性組。
正室又巳子病免の元禄八年平又月廿日

死津念寺に葬

信重 外記

月十青紀于未來

信要

言如物九信方字

信藏

心初六也子二月十日首養子。安永日未年
前其書方在信。因大原子二月其方於性
組。天昭七年二月其方死。于六月其因
子其方

昌信

安永德云郎

實田教圖書註番二男

△同年四月廿八日

天昭七年二月十日首養子家。安永
八年二月其方畢業院番。同年十二月廿
初九日

高千石

東照宮所代 浪野姓

高子石

○ 女部

家後 連統系

女部大元玄治男海部仁勝二子

心成

女部大元玄治

心成

慶長女部子

寛永年中馬林上座三長加後白石

東照宮代(百出)人。寛永(巳)年大元玄治

○ 同土内子十月廿日使番。心保曰玄子相刻

奉行。寛永元(巳)年玄治。寛文九年(巳)年

△ 寛永元年野島自志
相轉塔中送官子
秋久但了相か行

土口元中自來光村在禪院(葬)

信成

初信友

本教仔細也

信成

或又か信

寛永十七年子二月廿二日

大敵院殿小姓の廣安九子子土口海日又佐

成より通世公孫孫に傳用信人といひ信

忠信といひし所由なり(四用信傳りて何

か源仁名所用向人車奉りて信と

病氣に表し此通師と云ふは信と云ふは一曰三四度免病

○廣安曰年曰月廿日 葬所より信成

信成院殿

大敵院殿(建)より信成院殿(建)と云ふ

と云ふは信成の明曆三年子二月廿二日

○同元中同安といふありて名改りて信成

と云ふは信成

大敵院殿より信成院殿と云ふは信成院殿

と云ふは信成院殿と云ふは信成院殿

と云ふは信成院殿と云ふは信成院殿

德陽時辰二。○寛保二年十一月廿五日
小若清海山書信河用。○德陽時辰二全夜
○正喜三子多十一月廿五日伏海山。○正喜三子
曆二申年十一月廿五日物筒以。○同大子
六月廿五日死七年取回寺子葬。

信滿

其那或

名也刑部

主稅圖書

元文元年十一月廿五日初見。○寛保二年

年九月廿三日家譜。○同七年十一月廿

日性組。○安永二年十一月廿五日之信

○寛政十一年十一月廿五日老免令三枚

高平石

寛保二年十一月廿五日

其那或

信保

明和四年十一月廿五日養子。○寛政六

年十一月廿五日書院番。○同七年十一月

廿九日死又十一年同。○同七年

大猷院行朝代

滋野姓

高三百俵

女部

家紋

連所
丸内
龍
爪

本朝大猷院元男通那佐勝次男次直重

正成字

正成

本朝正成字

新規之正成字

慶安二年壬午正月

原子青月念免〇元永元申子又月原春

死守大猷院元男通那佐勝次男次直重

其
美川升在東子

信東

其
為新種也

定宝不己子七不月其子畢後同六年子二月

初信信不性組定宝元年五月廿五日死。父子同与。其保十口为子

八月十九日老免德全一夜。同十九日寅子二月

十八日死半三采同与。子存乃

信原

其
為新種也

陽
全休

元德為年十一月分書院友。同十友其保四年八月廿日為免

有本自本常病也。其保十九日寅子存乃。

寬正元原子口以言德原。同十子二月

曾死十午二采同与。子存乃

其
美川升在東子

其
為新種也

其
為新種也

信一

其保十七年七月廿分信原。存子。寬正

元原年四月廿日存乃。同九月廿分信原。

寛政六年九月廿五日
寛政六年六月廿四日
寛政六年三月廿四日

子孫

信面

天保六年九月廿五日
天保六年六月廿四日
天保六年三月廿四日

信面

三若

安永六年九月廿五日
安永六年六月廿四日
安永六年三月廿四日

十月廿八日
十月廿八日
十月廿八日

三若

東照宮御代

友系姓

三若

安信

安信
九月廿四日
九月廿四日

荒木坊津守小原兼地子石川願小和

田城之安信仁吉兼長男

長長

幼長

荒木坊津守兼地子石川願小和

兼地多石と云。凡列松平辨慶と云々の
上仕

神后の命しりし中々々々尾後大綱云義重の是

勅書抄

良才

又良才迄跡お後尾列各仕

長徳院法印

順貞

大猷院法印代主尾行醫所。寛永十九年
安永院法印幼年と云々の外行例有

はるれ紅下り法印兼方と云々然有
傳書也しては年三月九日法印傳

ら道由しは例醫所六百石幼と云々
序と好例有と云々。此書は年六月廿日

記深川云々院了と云々

長徳院法印

吉平卿

暖屯

寛文十三年七月廿六日御落書。江州御
 所。延文八年御落書。〇〇〇〇〇〇〇〇
 七月廿七日御落書。〇〇〇〇〇〇〇〇
 法眼。元禄元年六月廿八日御落書
 行免書勅。〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
 十四年十二月廿二日御落書。元禄六年正月
 廿二日御落書。〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

瑞運

長徳院

元禄十四年十二月十二日御落書。小書。〇〇〇〇
 元年三月廿一日御落書。〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
 死。〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

正亞

長徳院

長徳院

元禄十四年十二月十二日御落書。小書。〇〇〇〇
 保九年十二月廿二日御落書。〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
 七月廿二日御落書。〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

正惠

長徳院

右大臣

寛保元年七月廿一日御宇。○寛延二年七月廿日死。年八。葬。門。寺。○

正廣

長徳院

徳吉郎

寛延二年正月廿日御宇。○寛保元年七月廿日死。年八。葬。門。寺。○

正製

長徳院

徳三郎

正製 正惠次男

寛保元年正月廿日御宇。○寛延二年七月廿日死。年八。葬。門。寺。○

常急院教部代

友系姓

馬四百名

河部

家数

九ノ内五名存

大織冠謙足公出雲守因白道兼公後流

河部良房又所改重次男

改澄

河部良房

元禄九子年十一月七日早石分知子喜信の正徳

四年子四月二日中書院番の元文天申年

四月方老免徳全致教の延享元子年二月

十日死七年早良丸の本山寺葬

改久

阿依権二所

多病家治者

正保

正保人子
阿依松助

寛保三亥年二月廿日始孫正且○正亥
元子年九月廿日始孫○家曆十存子二月
十日方以書院番○安永六中子日克佐奉
○同公美子八日女九日死續有子多年八歳回与上葬

改厚

正保人子
阿依忠元

安永八亥年十月七日春孝存孫○天明元
年十二月廿日所小性組○寛政七年
二月廿日小令永江廉物佐

高田白石

手紙

友原姓

女信

女信仁彦の長成男

長成

女信勅書

作豊臣有次公(長成)の松平薩摩守忠在り

1. 長成の尾張大細之義忠(長成)の病死

須臾

女信長徳院法承

永正十九年
殺有院殿
九日法不
死深川
院

瑞屯

寛文十三年七月
天和三年七月
法眼
在平所

年八月
十首小
至永文子

瑞運

英信長徳院

元禄十三年
丑年

正史

実中

女信長徳院

在平所

寛永六年正月十日家格の回九辰年
十二月廿五日若川養生所四用の寛保元年
七月廿五日乃乃仕の寛保二年十二月廿九日
回九辰年

正史

女信長徳院

在平所

寛保元年七月廿五日家格の寛延元年
七月廿九日死に承回九辰年

正史

女信長徳院

在平所

寛延二年十月廿日家格の宝暦二年
正月廿九日死に承回九辰年

正史

実中

女信長徳院

在平所

宣曆二年十一月廿五日
改凡已亥八月廿七日
書

高六石

紅地

藤原姓

高石

河倍

河倍
河倍

大藏冠後孫千代

後胤河倍

河倍公之丞

重光

寛永二年十一月十一日

台座流傳功見

河花留之在昔父手真祭より初親
 六百石上徳國者法國より米一〇月
 九百石二月如秩六百石〇年此書後書。
 考其女之宮本年十二月十日有小人改同
 江戸本年二月十日如秩六百石故合石
 〇此曆二申年同江戸有死〇格或蔵年
 〇京町蓮光寺奉

寺田
庚の信
 阿信〇と云
 初本之助

此曆二申年二月十日如秩六百石
 〇此物之取之所〇百石二五年七
 〇月十日如秩六百石〇水二五年六
 〇月十日如秩六百石〇七五年一月十
 〇日如秩六百石

正統
 河信百助

元永七之月十日自外督口直保七家子
二月廿八日自直保口直保七家子
三月廿五日自直保口直保七家子
四月廿二日自直保口直保七家子
五月十九日自直保口直保七家子
六月十六日自直保口直保七家子
七月十三日自直保口直保七家子
八月十日自直保口直保七家子
九月七日自直保口直保七家子
十月四日自直保口直保七家子
十一月二日自直保口直保七家子
十二月一日自直保口直保七家子

正寛

河信八之丞 始令之助

元永七之月十日自外督口直保七家子
二月廿八日自直保口直保七家子
三月廿五日自直保口直保七家子
四月廿二日自直保口直保七家子
五月十九日自直保口直保七家子
六月十六日自直保口直保七家子
七月十三日自直保口直保七家子
八月十日自直保口直保七家子
九月七日自直保口直保七家子
十月四日自直保口直保七家子
十一月二日自直保口直保七家子
十二月一日自直保口直保七家子

信信院殿河内口直保七家子
元永七之月十日自外督口直保七家子
二月廿八日自直保口直保七家子
三月廿五日自直保口直保七家子
四月廿二日自直保口直保七家子
五月十九日自直保口直保七家子
六月十六日自直保口直保七家子
七月十三日自直保口直保七家子
八月十日自直保口直保七家子
九月七日自直保口直保七家子
十月四日自直保口直保七家子
十一月二日自直保口直保七家子
十二月一日自直保口直保七家子

正章

河信百助

初保七家子

弘治六年二月廿七日

正月廿七日

正月廿七日

正月廿七日

正月廿七日

十日

十日

行

有

河

栗田園白道

阿倍

定

始

信

十二月廿七日

河倍大元

定右

清原公

唐忠君少事仕之命を近よ閉

東照宮御幼少之時是湯小を諸事

身行を以て下之命を以て教養御功

○天文十八年十二月廿七日死葬地は

河倍公系

初 公系

定次

清原君御事方一付見し大元

唐忠君少後一任集國小おし一清

原公少後一任集國小おし一清

原公少後一任集國小おし一清

唐忠君とゆふひに河を御入ると

を新に誠度の感徳ありまは

なす一河一族及び後代の公系

公系とゆふひに河を御入ると

廣忠君も海に帰るを許さず定次公の
勅旨并に世取人北条不忠と書死し
深く乞と相子孫に傳ふ。天正十年
年二月有死

河倍正勝

次

天文十一年冬刑之即正勝討

戦死

実名係正勝河倍正勝

河倍正勝

初正勝

正勝

大藏定左衛門正勝とておそり
忠政とておそり定次公の
その家とておそり忠政とておそり
者とておそり射とておそり精云の名
とておそり定次公の軍功あり。天文十
巳年二月に定次公の御命に
討つて死す。初陣尾州の戦に
射つて死す。御命に
勝利あり。御命に

口千六年年濟河合戦の時尾州を逼
 へて去るに射殺し一〇日十六未年前
 梅坪忠政雅所小をく尾州の松敷
 今と射殺小より敵拒とをひす引退
 後留敵陣より去る夫と追つる一〇日十七
 申年鴨取門近陣の内尾取の松荒
 川敷布り士年教人を射殺し一〇年
 冬州西中松敷尾州の云とある哉
 右取松浦常布濟河をく尾取布と同

一〇日十八未年前
 多し一〇年一〇日十八未年前
 去るに射殺し一〇日十六未年前
 梅坪忠政雅所小をく尾州の松敷
 今と射殺小より敵拒とをひす引退
 後留敵陣より去る夫と追つる一〇日十七
 申年鴨取門近陣の内尾取の松荒
 川敷布り士年教人を射殺し一〇年
 冬州西中松敷尾州の云とある哉
 右取松浦常布濟河をく尾取布と同

此の云とあるは
 口千六年年濟河合戦の時尾州を逼
 へて去るに射殺し一〇日十六未年前
 梅坪忠政雅所小をく尾州の松敷
 今と射殺小より敵拒とをひす引退
 後留敵陣より去る夫と追つる一〇日十七
 申年鴨取門近陣の内尾取の松荒
 川敷布り士年教人を射殺し一〇年
 冬州西中松敷尾州の云とある哉
 右取松浦常布濟河をく尾取布と同

い首石門回りぬ入山常備軍付
九

東照宮 上給ふりし書りて名入。

唐右大臣の御

東照宮御幼少の以唐使を為存御事賜ふに
野西野教方の諸乳名政及本所ちり
系小一族とおぼしに軍切放棄す念入
○しの中平村谷大所の政神を念七
槍を念すしは今同乳名後所より記

所尾海小島向村南元御死ありし
東照宮より志書送るを後名政使

○し其年七年の同之村一向宗降死の
村大久保常備軍と同一日山尻

と飛越敵方渡る平花御小者花を
席ハ御後河田平所ハ御後 在友を美

服指及遣と敵 懐中 智人助を美 見上つ後す城に
軍あり後送美
又六ハ 道沙馬く節遠小 之御死傷のもの美

○し其年台より河合戦の村城をい
敵の猛將と射 後日すし 浮橋小とみ

敵の物取に射深洋江岸ふとの首成す
すのし年東之河は戦し射敵と陸と
合と有とくろのし年酒井が監
律教の時

東照王攻まるとし 河邊陣の時敵のえ
絶のものに射殺し皆川九鬼よりい
りり山守の胡命と表りて有と為
小玉の海澄下りてと表れ法小と
くが傷まるとの多く絶不射利を得

元徳元年六月廿日掃川陣に在り
敵と射り 東照王と有るありのし言
れり道徳に射甲利と云ふと射のし徳と
我射者果の悪善の成りたりと云ふ
酒井が射敵に同じくかれは射くこと
は子子を利絶陣大久保忠世と同一庵に
大久保忠世と同一保城とありと云ふ
りりそとありと云ふと云ふと云ふ
とありと云ふと云ふと云ふと云ふ
とありと云ふと云ふと云ふと云ふ

日向守長子に授けし島嶼に面する所
に多岐にわたるし作爲しゆくは政略に
寄るも亦其の事ありしは古今傳世に
示すも亦其の事ありしは古今傳世に
示すも亦其の事ありしは古今傳世に
示すも亦其の事ありしは古今傳世に
示すも亦其の事ありしは古今傳世に
示すも亦其の事ありしは古今傳世に
示すも亦其の事ありしは古今傳世に
示すも亦其の事ありしは古今傳世に
示すも亦其の事ありしは古今傳世に

石作院政一りおれし河家よりくも等れ
事として亦其の事ありしは古今傳世に
示すも亦其の事ありしは古今傳世に
示すも亦其の事ありしは古今傳世に
示すも亦其の事ありしは古今傳世に
示すも亦其の事ありしは古今傳世に
示すも亦其の事ありしは古今傳世に
示すも亦其の事ありしは古今傳世に
示すも亦其の事ありしは古今傳世に
示すも亦其の事ありしは古今傳世に
示すも亦其の事ありしは古今傳世に

心之

河信正

信正

慶長十巳年九月廿九日書院番の同年十月
の日向守長子に河家より授けし島嶼に
面する所

と射止。龍浦と高河橋。河津土を差割
禁右竹根と持付。三人。佐藤。大。野。を
ゆとり。射。殺。す。人。を。令。あ。り。く。ら。あ。を
市。佐。と。磨。友。と。い。ま。多。士。月。日。自。平。居。主
計。以。親。在。病。作。り。多。れ。た。あ。尾。羽。射。古。在。針
同。日。自。取。得。同。日。自。取。河。一。百。と。親。在。病。作。云
上。同。日。自。取。の。日。を。多。多。三。月。休。分。自。射。の
同。九。寅。年。大。坂。藩。佐。本。の。同。年。十。月
十。日

古徳院殿依分所撰と河田(をめぐせ)れ
一。射。止。之。を。持。別。と。多。と。元。を。持。水。中。橋。と。是
見。親。軍。勢。之。陣。中。と。排。個。一。屋。美。形。心。と
系。一。河。津。平。野。小。池。系。と。多。多。多。十。万。の。取
也。有。上。野。の。取。上。使。と。中。橋。の。取。分
○。同。分。方。の。取。分。心。信。心。之。小。附。城。と。接。三。万。を
地。と。守。り。ふ。り。地。形。と。接。心。一。と。河。津。の。接
川。は。大。徳。院。と。い。ふ。と。多。多。多。と。多。と。多。と
古徳院殿依分

東照(一) 此後ありては、
あり又ふまふおはき同と
築しめらるゝの事、
なりて命とらるゝ
かたきと

所新極も、
おなと、
しつと、
あし

一 佐治

東照(二) 休を、
おと、
戸川、
軍勢、
委和

河下知るる依松汁よりとやとと人夜差
也と云ふまゝるよふ名波士年をとりし
討とらへ後悔はたかひわつきのしとせし
ぬち終り同と云ふに之より後病より紙
をす何し病使ち左邊の病より紙
ちる海をいそいぬ一りんと思ひて之より
海より今よりと判はすし同今も係戸川
云は某と一是し上福徳を云へりしと
る也(下)後漸次某人心来り戸川上
御事

感し思ひてるるを活し徳地は
る清神徳らるる勢と加勢とを
は有徳の戸川に収し
と云ふ天満の歌を
見ゆ石川殿は
我場と云ふ
子見ゆ其後
平野

右徳院殿より
具言在

比治其事務、既而感其危、故使佐渡也、
信何長又去舟大炊、既而清使住右三、紙紙其
平野、而後有今日、戸北後与及松平、左軍將
云士、雖而、進合、于法軍、不和、勢、之、行、之、事、
不、思、矣、其、年、信、之、為、是、也、其、機、略、也、一、也、之、事、
一、一、と、果、之、正、之、積、り、り、と、
其、機、略、也、一、と、一、海、初、の、戦、也、一、勝、と、一、と、其、
謀、と、一、を、道、一、付、と、一、は、意、也、又、曰、于、備、也、
今、來、乃、自、備、之、川、邊、也、一、と、一、佐、渡、与、水、也、其、事、

細と、お、尋、し、時、大、々、常、し、事、あり、一、本、を、以、て、一、
と、信、將、及、向、は、味、方、一、勝、と、一、小、勝、と、一、と、一、次、利、勝、
た、と、一、と、一、信、と、一、は、一、は、小、勝、と、一、と、一、向、く、也、
一、と、一、と、一、と、一、と、一、と、一、と、一、と、一、
一、と、一、と、一、と、一、と、一、と、一、と、一、
一、と、一、と、一、と、一、と、一、と、一、と、一、
一、と、一、と、一、と、一、と、一、と、一、と、一、
一、と、一、と、一、と、一、と、一、と、一、と、一、
一、と、一、と、一、と、一、と、一、と、一、と、一、
一、と、一、と、一、と、一、と、一、と、一、と、一、
一、と、一、と、一、と、一、と、一、と、一、と、一、
一、と、一、と、一、と、一、と、一、と、一、と、一、
一、と、一、と、一、と、一、と、一、と、一、と、一、

古徳院殿よりわしんとよこし之陣をいぬ
ゆきとむきりれよこしは石川軍の
あまはあありて天満、秋おとと鴨川に
よこしは進軍のありてよこしは此軍初
軍傳よりむきりてよこしはよこしは
よこしありてよこしはよこしはよこしは
よこしはよこしは

古徳院殿よりわしんとよこしは石川軍の
あまはあありて天満、秋おとと鴨川に
よこしは進軍のありてよこしは此軍初
軍傳よりむきりてよこしはよこしは
よこしありてよこしはよこしはよこしは
よこしはよこしは

よこしはよこしはよこしはよこしは
よこしはよこしはよこしはよこしは
よこしはよこしはよこしはよこしは
よこしはよこしはよこしはよこしは
よこしはよこしはよこしはよこしは
よこしはよこしはよこしはよこしは
よこしはよこしはよこしはよこしは
よこしはよこしはよこしはよこしは
よこしはよこしはよこしはよこしは
よこしはよこしはよこしはよこしは

古徳院殿よりわしんとよこしは石川軍の
あまはあありて天満、秋おとと鴨川に
よこしは進軍のありてよこしは此軍初
軍傳よりむきりてよこしはよこしは
よこしありてよこしはよこしはよこしは
よこしはよこしは

別事の在る所は後叙の如し
 此後四月に初元和元二年の御
 上皇と今上皇と大抵其礼の時
 後書忠厚之を臣が所也
 書状と乞はく徳和の面
 更作の大坂より山越し
 合と隠し忠厚の謀臣
 徳謀の所也徳和と
 御上皇と今上皇と

一 更作の 難流より
 徳和と今上皇と
 別人より徳和と
 正之より自復と
 後書忠厚之を臣が所也
 元年より
 ありしより徳和と
 〇四年十月江戸神田
 之より徳和と

河本不揚... 志く

之れと捕... 百年金

と謀... 虎口

善... 江戸

河... 江戸

○同九... 紙

能... 免

永... 福

同... 春

○同八... 日

同... 日

○同... 日

○同... 日

○同... 日

○同... 日

大... 日

○同... 日

竹... 日

○八年... 運

暮自陰陽之失也故之○同年十月二十日
 日夫復不放美之書之機故之○同年未
 年二月五日續後國巡見之正保百二年宵
 七日正之場子改進並正然其成忠澄政事
 及其獨重信之機之上野東教也

東照宮神祇考之書村之札抄

正之代は正信之世に正信は正信の神也
 正信は正信の神也正信は正信の神也
 正信は正信の神也正信は正信の神也
 正信は正信の神也正信は正信の神也
 正信は正信の神也正信は正信の神也

正信は正信の神也正信は正信の神也
 正信は正信の神也正信は正信の神也
 正信は正信の神也正信は正信の神也
 正信は正信の神也正信は正信の神也
 正信は正信の神也正信は正信の神也

東照宮神祇考之書村之札抄
 正信は正信の神也正信は正信の神也
 正信は正信の神也正信は正信の神也
 正信は正信の神也正信は正信の神也
 正信は正信の神也正信は正信の神也
 正信は正信の神也正信は正信の神也

めくれず

元禄五年六月廿七日...
七月...
八月...
九月...
十月...

元禄六年二月...
三月...
四月...

古

政

阿倍

左

元禄六年

古

大

元禄七年

大銀院敷少上座住持の御七度生誕日見

所社奉仕奉一の御儀元申事二月廿六日

の御材木の御移し御勢子不知の御慶年

二月廿五日迄分ち御人同全月毎日布衣

御慶元年二月廿日御日御事あり

御年の御年御日見元住持の御慶年

二月廿日御事あり御元住持御年十月廿日

御事あり御元住持御年十月廿日

御事あり御元住持御年十月廿日

↑
御年の御年御日見元住持の御慶年
御事あり御元住持御年十月廿日
御事あり御元住持御年十月廿日
御事あり御元住持御年十月廿日
御事あり御元住持御年十月廿日
御事あり御元住持御年十月廿日
御事あり御元住持御年十月廿日
御事あり御元住持御年十月廿日
御事あり御元住持御年十月廿日
御事あり御元住持御年十月廿日

御事あり御元住持御年十月廿日

御事あり御元住持御年十月廿日

御事あり御元住持御年十月廿日

御事あり御元住持御年十月廿日

御事あり御元住持御年十月廿日

御事あり御元住持御年十月廿日

御事あり御元住持御年十月廿日

御事あり御元住持御年十月廿日

御事あり御元住持御年十月廿日

御事あり御元住持御年十月廿日

御事あり御元住持御年十月廿日

御事あり御元住持御年十月廿日

御事あり御元住持御年十月廿日

御事あり御元住持御年十月廿日

御事あり御元住持御年十月廿日

御事あり御元住持御年十月廿日

御事あり御元住持御年十月廿日

口手五月廿二日
小名...
...

寛平二年四月十日...
二月廿二夜...
三月廿一日...
...

千二百...
...

政恒

河越... 権部

寛平二年三月九日...

十一月七日女若出何才之文所改定也
 分知の正徳二年十一月廿一日
 正徳十六年七月十日是年九月取
 葬

改恒親政事之契及此後之契
 相傳也

虎頭式

正徳
 男女大少

類同旗之流内

流内
 流外

伽羅種

右之契保文成平九月有馬之庫以
 此契保之契保
 正徳十六年七月十日是年九月取
 葬

正徳十六年七月十日是年九月取
 葬

改

阿信守之契

控節

正徳十六年七月十日是年九月取
 葬



政景

河橋正房 松尾

寛保二年九月廿七日
年九月廿七日
英信之友の明和二年二月廿七日
の頃寛保二年十月廿七日
の寛保二年二月廿七日

政儀

阿倍左衛門

寛保二年九月廿七日
の頃寛保二年二月廿七日

高松正房 寛保二年

人... 友原性 三十七百石

河信 承安 友巳

河信 日新 友巳

正義

河信忠實 又... 義

寛永十一年八月十八日初見の同上月

山内... 同

十七年... 同

四月... 同

改の布衣の同年十一月廿七日
七百俵の田三石多日之田法事
年子日之田一石之田元有子
病光の元禄以来年方死
葬あり

山装

阿信

元禄

山装

元禄以来年方死
葬あり

山装の田三石多日之田法事
年子日之田一石之田元有子
病光の元禄以来年方死
葬あり

山在

阿信

山在の田三石多日之田法事
年子日之田一石之田元有子
病光の元禄以来年方死
葬あり

正題

実証書

阿倍志志傳

文苑

養子之事保正(五年)八月廿九日
卯子九月廿一日
卯子九月廿一日
卯子九月廿一日
卯子九月廿一日
卯子九月廿一日
卯子九月廿一日
卯子九月廿一日
卯子九月廿一日
卯子九月廿一日

正方

阿倍志志傳

志助

養子之事保正(五年)八月廿九日
卯子九月廿一日
卯子九月廿一日
卯子九月廿一日
卯子九月廿一日
卯子九月廿一日
卯子九月廿一日
卯子九月廿一日
卯子九月廿一日
卯子九月廿一日

中正

阿倍志志傳

兼在

養子之事保正(五年)八月廿九日
卯子九月廿一日
卯子九月廿一日
卯子九月廿一日
卯子九月廿一日
卯子九月廿一日
卯子九月廿一日
卯子九月廿一日
卯子九月廿一日
卯子九月廿一日

免

高七百石

大藏院殿

有原姓

高七百石

阿信

阿信 阿信 阿信

阿信 阿信 阿信

細掃

改信

阿信 阿信

廣安二五年十一月廿二日

亥年七月十日

物光の

巴道

改等

阿倍吉房

天保三庚子九月廿七日
吉房在任所病歿之日
同日吉房在任所病歿之日
同日吉房在任所病歿之日
同日吉房在任所病歿之日
同日吉房在任所病歿之日

改良

阿倍吉房
阿倍吉房

阿倍吉房

西徳元禄二年十月十日
吉房在任所病歿之日
同日吉房在任所病歿之日
同日吉房在任所病歿之日
同日吉房在任所病歿之日
同日吉房在任所病歿之日

改房

阿倍吉房
阿倍吉房

天保三庚子十月十日
吉房在任所病歿之日
同日吉房在任所病歿之日
同日吉房在任所病歿之日
同日吉房在任所病歿之日
同日吉房在任所病歿之日

同日

改徳

阿倍長足

抄

此の頃長足ありしころ長足は長足の業
七段より八段以上上段射在也の天照元孫
十リ長足は上段村全段の日は未だ
其の水も上段にありては未だ
同日九月一日

上段に長足は長足の業
相成りしなり今長足は長足の業
上段に長足は長足の業
上段に長足は長足の業
上段に長足は長足の業
上段に長足は長足の業
上段に長足は長足の業

高直儀

有章流石



河部姓

高木家

阿部

河部

河部氏

河部氏中書正邦二男

正容

河部氏人

百助

北山

正徳五年三月十二日因修令正容の儀分領羽子

正容命同日同年十月十日初見。安永三

十年四月七日没仕遊公。日年六月九

年九歳没。京西福島

平賀氏系圖

正統

河津年久忠

正勝

年編三十一代正室一二年十月二十日(三)
寛延三年十二月十八日初見。至曆八寅
年十月十二日死。年六。葬。地。同上。

河津英次郎

朝貞

正依

正依 正子儀
明和元年申年一曰年三月二月廿二日初見。女永三平
年四月廿七日卒。○寛及九正子儀十月廿七日

安樂心院文清正依系系少孫。今。有。叔。時。後。
二羽。行。日。年。十。二。月。初。見。内。福。

正利

河津年久 獨在

寛及二成。子。十。月。廿。二。日。初。見。

有子孫

河部姓

子孫



河部

長

長

河部伊豫守正春二男

正長

河部周防守 正長 内記後部

正徳四年四月十日 河部氏部少輔正長

分地二子儀。享保土。中興也。小姓。

。同十七子。平。十一月十日。叙并周防守。正長。

一。清。若。出。給。仕。勤。延。享。三。箇。子。三。月。

十^一日^一小姓組番^一。元禄元年十一月
女八日^一出^一院^一。日三^一百^一年八月^一女^一
死^一五十二^一米^一海^一東^一院^一葬^一

正親

河内^一内^一記^一 多^一交^一 大^一昭^一 主^一校^一

寛保三^一亥^一年^一土^一月^一廿^一日^一養^一子^一。延^一享^一元
子^一年^一九^一月^一十八^一日^一初^一見^一。元^一禄^一二^一百^一年^一初^一
女^一廿^一日^一卒^一。同日^一成^一年^一三^一月^一廿^一七^一日^一初^一葬^一

組。日十^一存^一年^一正月^一十日^一初^一見^一。同^一年^一
六月^一廿^一日^一中^一國^一筋^一巡^一見^一。日七^一月^一廿^一日^一
布^一衣^一。同^一土^一巳^一年^一正月^一廿^一八^一日^一巡^一見^一。出^一海^一
時^一被^一三^一羽^一織^一令^一平^一校^一。日年^一八月^一廿^一日^一
向^一路^一平^一門^一詔^一所^一。死^一年^一葬^一地^一付^一之^一

正保

河内^一内^一記^一 長^一岡^一 德^一右^一郎^一
三^一子^一男^一
三^一子^一郎^一 三^一子^一儀^一
元^一禄^一二^一百^一年^一八月^一廿^一日^一卒^一。元^一禄^一三^一百^一年^一

年三月廿七日日本書紀少納戸。同年三月廿七日日本書紀初九勤。同年十二月十九日日本書紀布衣。安永四年六月三日日本書紀水收。同日日本書紀申年六月

孝恭院殿日本書紀疹日本書紀頭湯日本書紀祝日本書紀後日本書紀。時服三

幼日本書紀。同日日本書紀疹日本書紀中日本書紀貴日本書紀利日本書紀慶日本書紀賞

張日本書紀十日本書紀收日本書紀。同年十二月廿七日日本書紀松日本書紀川日本書紀勿日本書紀依

弓日本書紀時日本書紀後日本書紀三日本書紀。同日日本書紀六年十二月廿七日日本書紀叙日本書紀許日本書紀

之日本書紀長日本書紀門日本書紀也日本書紀。同日日本書紀八年十二月廿七日日本書紀叙日本書紀許日本書紀

孝恭院殿日本書紀時日本書紀進日本書紀金日本書紀古日本書紀與日本書紀風日本書紀。同日日本書紀廿七日

寄日本書紀命日本書紀。天日本書紀治日本書紀元日本書紀世日本書紀年日本書紀四月廿七日日本書紀西日本書紀九日本書紀小

納日本書紀戶日本書紀。同年日本書紀五月廿八日日本書紀小日本書紀收日本書紀。同年日本書紀同

五月十八日

沖日本書紀養日本書紀君日本書紀作日本書紀出日本書紀。孔日本書紀也日本書紀祝日本書紀後日本書紀。時日本書紀服日本書紀二

清日本書紀養日本書紀君日本書紀。同日本書紀。二年日本書紀四月廿七日日本書紀。

大日本書紀納日本書紀云日本書紀殿日本書紀。元日本書紀後日本書紀也日本書紀官日本書紀位日本書紀。時日本書紀祝日本書紀後日本書紀。時日本書紀服日本書紀二

時日本書紀後日本書紀三日本書紀。同日本書紀六年日本書紀十月十七日日本書紀

也日本書紀。初日本書紀九日本書紀勤日本書紀。同日本書紀七年日本書紀五月三日日本書紀也日本書紀。祝日本書紀後日本書紀。

時日本書紀祝日本書紀後日本書紀。時日本書紀服日本書紀二日本書紀。時日本書紀後日本書紀三日本書紀。

亥年正月廿二日。出。居。高。同。年。七。月。
廿二日。先。子。出。活。胞。氏。同。日。子。年。同。月。
廿二日。病。免。

継古郎 隆三郎

正常

丁卯年正月廿二日。出。居。高。同。年。七。月。廿二日。先。子。出。活。胞。氏。同。日。子。年。同。月。廿二日。病。免。

大猷院

河部姓



河部

高千石

河部 隆三郎

河部 隆三郎

河部 隆三郎

正久

大猷院。隆三郎。出。居。高。同。年。七。月。廿二日。先。子。出。活。胞。氏。同。日。子。年。同。月。廿二日。病。免。正保二。同。年。七月。十六日。死。浅草宗安寺葬。

正吉

河部九郎

後醍醐院時代原米子儀と稱し、水書院為
○病歿。延喜元年八月十二日死葬地
同上

正券

河部甚三郎

貞享四年水書院為○元禄二年

原米地方水川稻子石。享永元申年
如和深川面水改。同二百年八月十日
小石川蓮花寺葬

正敏

河部甚三郎 九郎

享永二百年十月晦日卒。享保二
年三月十八日水書院為。同十七子年
十九。大坂也貞時代。延享元年四月

十有八之院番組以。同日二年八月病免
○同日卯年十月廿六拾^死葬地同上

正輔

河部大次郎

元文四未年六月廿九日小姓組。延享
卯年二月十日大納言院時後。同日午
月廿四日奉替。○沙弓場娘令三夜時後。
○同日午年六月七日病免。○同日子年

四月廿二日發仕查存。○日七宣年二月廿二
死年八氣葬地同上

正權

河部甚二郎 豊次郎

明和乙子年四月廿二日奉替。○日午年
女六。為丸也書院番。○^{高子衣}○^{高子衣}○^{高子衣}
十月廿七日奉九勤。○寛文八年十二月
十日西九勤

嫡孫水祖

河部伊郎

正直

寛政十一年九月廿七日嫡孫水祖

岩倉院御代

河部姓

河部

石原

石原 河部 石原

河部甚三郎正久二男



河部大膳 刑部左馬 水内

正直

數馬

岩倉院御代石原甚三郎正久二男

○元禄三年十月廿九日少性徳友。同又
申年六月廿日病免昇合。同土當年廣業
地方少門勢石原甚三郎正久。致仕。

正徳四年六月廿九日没。享年七十一。葬。寺。葬。

正親

河部 恒美 右京 孫十郎

元禄四年十二月二十日。小姓組。同日。巳
年六月廿六日。相。百。同。年。十二月
日。辞。入。事。信。元。申。年。六月。廿
日。小。姓。組。同。年。十二月。二。日。受。信。同。享。保。九
辰。年。十月。廿。六。日。病。免。同。十。二。申。年。十月。

廿六日。没。仕。体。受。同。十。二。戌。年。二月。廿。九
日。葬。地。同。上。

正氏

河部 百次郎

享保十二年。申。年。受。信。同。十八。丑。年。六月。廿
四。日。没。同。女。卯。年。二月。廿。九。日。勤。与。病。免
元。文。二。年。十月。廿。九。日。小。姓。組。元。暦。七
年。十月。廿。九。日。葬。地。同。上。

正明

河津教馬 大膳 孫十郎

至曆七十五年十二月廿七日家督。同八箇年
六月二日書院為。即永平元年。中務權平
那。天明七年八月三日病免。同日八申年
土月廿七日。致仕休養。寬政十年九月
廿九日。死七十六。葬於地同上。

実為し物心参想从

嫡孫承祖

河津右門

言五百石

正親

正統

明和己亥年九月廿六日。嫡孫承祖。天明
八申年土月廿七日家督。寛政元年四月
廿六日。為元書院為。同日二戌年七月
廿六日。為元書院為。同日六箇年九月十日。初孫上
為。同日七申年三月廿六日。少令。京山。鹿村
宗。河津子。同八年十二月廿七日。初孫知

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

卷之八

阿部姓

石

阿部

石

石

河部左馬助右左衛門尉正徳三男

河部志摩子 七三郎

正明

正明貞正方

延宝八巳年七月四日又揚摩子より此地
上総より月石石。同八申年八月廿日
中興山小村。天和元自年七月六日品府
組書取。同年十一月廿七日叙爵志摩子

同日二戌年四月廿一日友科子侯加秩とる
 同日年四月十二日尾州より使出ぬ日六月
 初日功福。貞享二年十月二十日去院
 番隊。元禄八亥年二月廿七日大出番隊。
 西徳又未年二月十日河州より去院と
 改日。貞保四年九月十五日病重と
 系。上意。より去院。栗中瑞足
 并國玄院橋降居。多々下。同日十月
 死卒。西萊池上。中。寺。葬。

正府

美河院書院より西武四男
 河州志摩子

大守 三子郎

貞保四年十月廿七日。西。同日又子年
 四月。

大能院殿。沙。重。至。棟。跡。勅。自。の。日。七。亥。年
 九月。初。日。瑞。府。加。由。少。所。の。貞。保。九。亥。年
 十月。九。日。少。任。由。少。子。揚。之。巨。兼。の。日。年
 十二月。十八。日。布。衣。の。同。土。辰。年。一。月。月。令。

系以廣傳傳事。○同十二事年二月十六日
 以小姓組為及。○同年十二月十八日叙爵。○
 同十二事年四月日先。○神社系傳事。○同
 十四百年四月廿八日尾別。○上使。○同十七
 子年二月部。○少書院為改。○元文二年
 六月部。○西九津例。○延享二年九月部。
 少公九勤。○寬延二年六月十日死。○卒
 三系葬地同上。

正部
北山倫

実河部文隆子三晴二男
 河部志摩子。大学或部子孫

寬延二年九月二日。○同年十二月
 十九。中興。○小姓。○室曆十二年八月
 女子病免。○和天子年。○六月廿九。○死。○卒
 三系葬地同上。

御書

河記志摩子 大學 或記

正章

子六子石

宝曆十二年二月十日

孝恭院為沙多系小人孫馬其利初見○昭和

乙子年八月八日書○日六月年六月書

後廢公為の條○日七書○九月廿九日書

○安永八年二月十日書

宗基院及七回沙忌出法子勅書○天明二書

正月廿日大酒改○同年十一月十八日布衣○

日比原年同正月十日改及為の山火也

少くを意○日月廿日書○定及の書

二月廿日改場田之條日也 市前

長公とれ二月十日書 鞠河本目と書

柳子沙多系と 市懸と 上と書

秋○日十書 六月十日 西丸小性組

書○日年十二月十八日叙封

常憲院勅

河部姓

高子石

河部

女紋 九月五日

河部播磨守正徳三男

正房

河部越中守遠江守

長吉郎
玄彦

延至己巳年七月甲子正徳より此地之者
上総國之月。貞享四年六月十二日
清小姓組高次。同年十二月廿五日。叙封
て越中守と稱す。同日又辰年八月十二日

元禄十年四月廿五日
紀州へ上使。同年八月廿八日書院為政

○同廿五日九月十二日後府在書院為政

同十六日平二月清給仕所受。至永三

成年十一月廿五日西九勅。○日比谷衛正山年

本事務府甚高也。○享保三成年二月

六日紀伊殿有傷民州大夫、上使也

○同七年七月廿九日病免。○同年十二

月廿三日仕以信伴五本六百石仕仕の

料ふ物くる。同十二申年九月晦日死す

一采地と中門寺墓

正興

河津出雲子 子殿 内膳

至永三成年十二月二日西九水小性

清宗小性之時腹と物ふ日月之。廣本三

百俵市是。清子自出市給と物り。○

同又子年二月廿五日

清宗之侍歎少と物り。同八月

海日春糖... 上院... 同日六年
 四月十二日... 神... 同日七年七月... 同日七年十月...
 同日七年十二月... 同日七年...
 同日七年... 同日七年...
 同日七年... 同日七年...
 同日七年... 同日七年...
 同日七年... 同日七年...
 同日七年... 同日七年...

○同年十月十四日

文照院教 堯治格列々 田舎々々々々

有章院教... 同日六年... 同日八年... 同日九年... 同日九年...

性温易从。同土平年三月廿八日小令系之
山原稻侍系左敷役。同十二年二月
十八日山書院番役。同年六月十八日
尾州。上侍山原。同十二年四月
日光寺社系侍系。同十八年六月
土日大寺番役。同年十二月廿六日病免以
后。同十七年二月二十日死。年八
葬他同上

正侍

河部出雲守 右衛門 内膳

享保十七年五月七日家督。元文二
巳年同土月十二日中奥山小村。同大平
十二月廿六日叙拜山原。延享二寅年
九月四日山小性组番役。宽延元辰年
二月十四日死。年四葬葬他同上

正元

河津遠江守 右三郎

元年九月庚子朔七日

寛延元辰年六月之末時。至曆七

丑斗土月之中。庚申小姓。同十辰年

七月十八日。叙爵左少将。同和二年四月

五十七日

东照天皇百五十四 神祇宗 即日老不

初舍万叙以執行以用掛。同三辰年二月

廿四日。元宗三策。葬地同上

正朝

元戸山嶽守連和之男

河津越前守 左近 左衛門 左三

高三子衣

明和三年六月。子。孝子。女。安永

二年十二月廿二日。初是。同又申年十月

十八日。中。庚申小姓。同。六月四日。

叙爵越前守。天明八年申年十二月廿二日

小倉信玄配。寛延三年十月廿七日。病

免。同七年四月十九日。例。上院人。
日八年六月十日。立花出雲守。及。宅。不
及。軍。学。心。試。日。月。女。子。第。一。百。一
那。く。在。其。例。く。出。海。古。方。く。

正良

河部能重
重三郎

天明三年七月十日。卷子。寛政又
五年十二月。女。子。初。見。

後

河部姓

河部

女

河部

河部揚磨の正能四男

河部能重の伯耆の正能 齋助

正貞

延宝己巳年七月六日。又。正能。り。多。他
上。總。國。之。月。二。子。石。寄。合。の。元。祿。七。成。年
三。月。女。二。日。中。奥。也。小。村。叙。爵。く。正。能。也。り
移。之。の。寛。永。元。申。年。正。月。十。日。也。小。村。叙。爵。又

○同又子年六月廿二日以及以是之小普信入
○享保八年二月七日伯考考考及考○同
十三申年十月九日考仕道運考○同又申年
十月二日死七十一歳池上考考考葬考

実河守考考西房二男

河部考泉考出羽考伯考考考伊織

云甫

享保十三申年十月九日考家考考考○日十六日
年六月廿二日考使考考考○大考考考是考○日廿

卯年六月廿二日考目考考考○元文四年十月
十日考小考考考考考○寛保二年六月廿
日考小考考考考考○延享二年六月廿二日
上使考○寛延元年正月廿八日考書考院
番考○日二七年九月初考在考考考令考考考
考考一考考考考考目考一考信考綿考入考考考
一考考考○宝曆二年十一月五日考組考中考考考
内考考考考考考考考考及考考考考考考考
考考考考考考考考考考考考考考考考考考

小菅信入内侍。同日二百年八月十日。内侍
山免。同日成子。七月。山免。死。中。三。葬。葬。地
日。上。

実況者。山免。良信。二男。

河部伊織

長孫

正實

寛延二己年八月廿八日。初見。宝曆。成子
十月。山免。成子。同。十三。事。年。七月。十日。山免
院。番。安永二己年。八月。十日。死。早。六。葬。

葬地。同上。

美河。山免。良信。二男。

河部伊織

全平

正恭

安永二己年八月十日。初見。同日。成子
七月。山免。成子。院。番。同。八月。十日。死。早。六。葬。
死。早。八。葬。葬。地。同上。

正色

美男幼丹後守詮方八男
河部清之忠

安永八亥年九月十日。生。天明年
年十二月廿二日。西九月廿二日。同六年
同十月廿二日。少中。乃。小。性。理。寛政元年
十月廿二日。病免。同日二戌年。同。女。為。任
音門

正永

河部任織 雅樂助

寛政二戌年四月廿二日。生。
高子石

清康

安倍姓

高天原

天孫

阿部

孝元天皇より出大彦之命之後胤

河部新四郎某男

河部新四郎

正信

清康君ハ二州安祥小村ク石出セリ。○大永

八年二月言我死二所安祥村明法寺矣

重尚

河部新四郎

清康表

廣忠君へ奉仕。天文九年六月廿二日上

野之城攻の別我九年八月奉養地同上

重吉

河部新四郎

天文九年奉陪。同年十一月奉付

廣忠君へ奉仕。同十年十二月廿六日

東照天皇 沖談史云河部新四郎奉養

川義元館へ入りて別供奉酒并

雅奉助平家七郎助河部善九郎内

茂と想ふ清と云ふ奉仕

東照天皇遠列筋の御野成と云は河部

之やかくゆふと揚る

東照天皇直筆と云書と物と云今も奉

○慶長十六年三月十九日死八十二歳葬地
小日向日輪寺

重次

河部新左衛門

慶長元年十四歳より信長に同十六年

家督の御子鷹馬に改

東照より琥珀と沙珠教の御好むに御拂

手成ゆり所持信長令と家督に拜伏

寛永二年未地五百石十四石或斗余と

以未と錫くと卯不地未八十石と錫

くと卯不地未八十石と錫子阿部之末河

重宣より地とと。正保二年七月廿四

九年二月小日向日輪寺葬る

重勝

河部新四郎

後河部

元和七年十四歳より勤仕。正保二年表

唐○山子鷹通以○明曆元年四月二日
死早八歳葬地同上

実澄次與山子鷹同貞教男

河部久太郎

貞重

貞重依兄海美與山子鷹同某若年
死○交形絶ふり母方叔父重次方より
左妻育ふ長生ふり母方之苗字阿
部と名系列辰津在云々叔父重次
某朝山子鷹元和二年初見一唐来百俵

山人杖持と楊より山子鷹通○天和二年
三月老免○日三年十二月没仕○貞重
二年十二月十五日死

廣貞

河部長左衛門

貞重二年十二月没仕○富士見山室
為○享保二年同十月甲子死長男貞福
及同姓新四郎勝平養子とより外より

男子なきふりり原米乞と申絶

重正

河辺新右衛門 所立書

以曆元年^{上朝}改曆の十^二の年の所より在仕
の事^一應^一通^一改^一の日三年^一紀^一の^一不^一武^一志^一國^一を
治^一教^一十^一条^一村^一の^一言^一百^一七^一年^一衣^一の^一年^一余^一花
田^一後^一二十^一衣^一の^一年^一の^一用^一地^一の^一代^一地
の^一武^一志^一國^一諸^一羅^一那^一玉^一井^一村^一の^一百^一七^一年

九^一衣^一の^一年^一余^一の^一所^一下^一立^一之^一和^一の^一物^一成^一治^一と
申^一す^一七^一年^一衣^一の^一年^一衣^一の^一物^一と^一る^一。○寛文二年
十月十日^一衣^一の^一年^一衣^一の^一地^一同^一と

勝平

河辺新右衛門 宣^一の^一助

寛文二年^一衣^一の^一年^一衣^一の^一物^一と^一る^一。○延文六年^一初^一見^一の^一事^一
通^一改^一是^一智^一。○天和二年^一二月^一廿^一日^一大^一の^一事^一。
元禄十年^一二月^一十八^一日^一新^一の^一事^一。○同十六年

十月廿五日死享年二歳葬乃地同上

室河村吉左衛門廣貞長男

貞勝

河村新左衛門 新九郎 吉左衛門

元禄十六年十一月十九日没命。高木元
巳月卯。大由為。西德二年九月廿五日
病免。享保十二年十二月廿日。由德村方
。同日十九年十二月廿日。由具足。元文
元年三月廿八日拂方。由德戸以。同日四年

四月十日

養仙院。由用人。寛保二年知所撰
毛。有令。百為。患。借。延享元年十月廿
病免。同日二年六月廿日。死。享年六歳。葬。地
同上

有徳院。由。代。享保年中。演。由。為。小。於。由
瓶。治。由。坂。市。由。忠。國。正。源。三。由。石。堂。其。年
有。之。之。由。打。物。水。作。月。由。水。由。用。由。親。友
享保十八年正月廿日。康。繼。之。由。力。
享保十八年十一月

月六日打上重肌 一徳并成今不称杯
長三人専

勝豊

河辺新太郎 彩之助 角之助

延享二年八月廿日安堵。同年同月
^{十一月}十六日小姓組。同日同月十二月廿七日病先
○^{天和}二年八月廿七日死。同十七年葬。葬地
同上

勝中

^{美文} 河辺新太郎 久太郎

延享十二年十二月廿四日参入。明和二年
六月廿日参入。同四年四月十二日大出陣
○安永八年六月廿九日病免。同年十二月
十五日没仕。惠樂寺。妙心。天明八年十二月廿
死。享年一歳。葬地同上

正貞

河越新右衛門

新五郎

善五郎

安永八年十二月三日發遣。同九年九月
吹上大的時後。天明二年三月廿七日大番
○日七年九月廿七日死。年四十九。葬他國。

勝賢

善文

河越新右衛門

兼五郎

言五百七十四。辰二年余

天明七年十二月三日發遣。寛政三年四月
廿七日大番。日七年三月廿日小令系沖
康待供奉。日十年九月廿五日吹上大的

若の虎殿河代

阿部姓

阿部

二子^尾八^尾才^尾右^尾家^尾後^尾 尾内^尾有^尾尾^尾三^尾枝

河代新右衛門重次養子二男

実因^尾玄^尾九^尾才^尾某^尾男

河代^尾二^尾才^尾某^尾男

二才^尾男

重宣

明暦元年十二月^尾退^尾米^尾八十^尾石^尾在^尾地^尾。日^尾三

申^尾年^尾二^尾月^尾初^尾是^尾。涉^尾海^尾の^尾形^尾と^尾絶^尾勤^尾仕^尾。○

寛文^尾四^尾年^尾二^尾月^尾八^尾日^尾大^尾出^尾島^尾。元^尾禄^尾三^尾年^尾○

九^尾月^尾七^尾。死^尾于^尾平^尾兼^尾校^尾町^尾妙^尾照^尾寺^尾葬^尾

実竹尾藤原基三男
河部八郎玄清

重常

延喜六年三月大出高。貞享二年
十二月元方出納戸。元禄元辰年十月
病免。同三年九月七日。家譜。高永
元申年六月晦日死。年五。葬。葬地。同上。

実海(井田治左衛門基忠次)

河部二郎玄清

遂良

皇叔

元禄七年七月卷子。高永元申年
八月家譜。同日。亥年十二月十日。大出高
。元文元辰年十月十八日大出高。組。元
曆九年十月十日。老免。寶令二枚。
明和四年十二月十八日死。八十。葬。葬地。
高永大納言。基忠次。

遂庸

河津渡太郎

宣曆二申年十二月某日西九書院為。
日十辰年七月廿一日

大少所附。同之己年八月。西九勤。以和子
年三月六日。寛政二戌年八月十日
老免廢令。同之亥年。六月六日。死七千
二采葬地同上

遂継

河津三郎右衛門 後四郎

遂真

高親末八十辰

安永乙申年十二月廿四日。同六年
七月十日西九小姓組。天保元年。同六月
十八日

大納言殿附。同年十月八日吹上大的時後。同二
宣年四月九日吹上丸物。同日辰年
三月廿三日。同辰年。同日辰年七月

付後。同六年十月廿七日。中九勅。〇日七

本年二月。難司。名。功。沛。成。之。列。

言。田。馬。場。少。之。之。大。的。射。〇。反。物。〇。日。年。

四月二日。吹。上。園。的。五。物。〇。定。改。三。年。

八月六日。定。改。〇。六。年。十。七。年。日。

若。若。附。

東照文庫

安信姓
河部

百六十年石
二百六十年石
九月尾三枚打邊
馬格

河部新四郎重吉養子

手板倉者助
河部新四郎

正勝

重吉坊之傳之入書多と有りし。実子也
生ふより

東照文庫と名し。正勝九條の時。石出と名し。
天正三十二年十一月。時。希。地。百。六。十。年。石。と。

揚りり水小仕候々甚敷文事者

東照文を別勅の爲に被り列其前ゆく津刀
就之侍者有之利及上覧の爲に
治村正小の爲其良罪人有之れ令を
うはし極之極に被り津刀奉仕の爲
の身事と云はれ石の節並其方候
心易事の思はれ身事並其方候
と云お侍の仕旨候 上覧者各拜願
一正務不相侍候と。其後正務の事存候

○慶長十九宮年元和元年大坂津陣
供奉。元和二年四月後府の城に於て

東照文の事例大切ゆく事有 其の身正務
の次之るに例云列津側へ百九十年
未之勤勞の賞ありし事懸く令を
蒙り今之被り身物有り。寛永二年
十月廿五日百六十年に於て米事と揚り
其後原米早石と加秩と云ふ或百
六千石と云ふ。同七年病免。同十六

卯年丁丑月廿四日。死七十五歳。小日向寺
仁寺

宗重

河内勸業

慶長八年丁卯年十一月十二日。死。小日向
寺。享年七十五歳。小日向寺。

大猷院殿内。宣永十六年丁未年。死。享年
七十五歳。小日向寺。同。

重春

河内清玄

大猷院殿内。代新親。百出。享年七十五歳。二
十三年六月四日。死。小日向寺。仁寺。

重豊

河内半十郎

慶長。死。不詳。延宝二年七月十三日
死。葬地。同。

宗義

河部勘十郎

宗義河部勘十郎傳成者父子とる

某

河部小左衛門

安永三年春

常憲院為津代十人組。元禄二己年九月

佐渡國へ流罪家絶

勝成

河部勘十郎 権九郎

寛永四卯年十二月水子奪取。形意二

己年七女等。水子や同役。伊豆國二徳表

少等。水子奪取。河部勘十郎。定宝七年

五月廿九日。伊豆國二徳表。成真子

水子奪取

宗義

美河郡平所重長之孫男

河辺勘左衛門

勘十郎

延享七年七月九日。家督の如く存す。以後

天明三年申年。申す。以後清用云々。存す。以後

○元禄三年七月十七日。死す。年五十五。葬

地。同。送。任。了。葬。所。

宗虎

河辺勘十郎

元禄三年十一月十五日。吉。葬。所。○同。十三。子

十一月廿二日。申す。○同。十五。年。同。八月。十日。

死す。年六。葬。所。地。同。云々

信茂

美水郡石巻町信休二男

河辺勘左衛門

河辺勘左衛門 万之忠

元禄十八年十月廿七日。死す。○享保三

美河子

美河子

戊午二月十乃小十人組○同九月五年十月
十八日新由事○日十二申斗四月是光
神社系修奉。寛延元辰年六月廿七日
元辰年一集券他同之

河原後大巻 万之忠

正旨

寛延元辰年九月二乃由事^{小巻}。同年十月
廿一乃元方由納戸。○宮曆以戊午四月十日

由事宮由方由事^{由事}用日年十月十八日由事
七枚。○日年十月廿二

沖藤中事 万治即表 由用元方由納戸之枚。○同九月八年八月

廿一乃元方由納戸之枚。○日十三申年十月廿

由事由用由事元枚。同年十月廿二

由事由元方由事^{由事}用元方由納戸之枚。○日十

二戌年八月二乃由納戸由元由事由用由事由

元枚。○日年十月廿八日

由事由所 万治由元方由用由事由元枚。○同九月

三月廿七 壽賀文亦向出婚礼

薩摩州十石取ル小又用藏方骨形取取
安永四年六月廿九日納戸文有極力骨形取取
安永五年申年十月十九 病免。同六年

八月十日 波仕。寛政八年六月十日
元八年之幕發地同

心盈

河部勘左衛門

百字表

安永二年十二月廿七 初見。同六年
百字表 現表

八月十日 安永。同七年四月廿九 元方

納戸。日九子年二月十日。納戸。同

薩摩州。天保三年十月 種振表

納戸の方。用波之取。日又三年十月

女。種振表。縁女の方。納戸の方

用波之取。日七年五月十二日

用波之取。日年十月十九。種振表

礼。用掛定之。元貞年二月十日。種振表

取。日年十月九。

淨基所

淑姬君

蓮光院御所用紙之數。同

二成平五月廿五日。御所用紙七枚。同

四子平十二月廿日。元祿御所用紙一系。後御所用

紙亦同。同。又。五平。五月廿五日。御所用紙

同。同。又。六平。五月十九日。御所用紙。同日表。御所用

所以年書。御所用紙。同。七。五平。十二月。御所用

紙亦同。同。又。八平。五月。御所用紙。同。同。八

五平。二月。廿九日。

淨基所。御所用紙。同。九。五平。六月。廿五日。

西元。就。上。之。御所用紙。同。御所用紙。同。

同。年。八月。廿五日。

大納言。御所用紙。同。御所用紙。同。御所用紙。同。

御所用紙。同。御所用紙。同。御所用紙。同。

御所用紙。同。御所用紙。同。御所用紙。同。

御所用紙。同。御所用紙。同。

大納言。御所用紙。同。御所用紙。同。御所用紙。同。

御所用紙。同。

大猷院殿

安倍姓

阿部

言二百儀

家致 九月廿九日 夜打送
石持 内馬御

河部勘左衛門宗重二男

河部九左衛門

重信

廣安四年新親王出立

帝憲院殿附少十人 少十人組次 廣永三百儀

病免 元禄二年十月甲子死 年五

小日向若仁寺出家

信求

実阿多助九郎宗次男

河部次郎八郎

天和三年十二月二日養子。元禄三
年十二月十二日小菅信。享保二四年十月
之半人組。正徳五年十月十日。元方
少波戸。享保十九四年二月廿四日。元方
河部次郎八郎

信宥

美石野孫五坊彦光三男
河部貞右衛門

享保十八年四月。享保十九年四月十九日
年六月。享保十九年九月
十九日。元方。享保十九年九月
二十日。病免。享保十九年四月。享保十九年
七月。病免。同上

伝勝

実山守左衛門四郎
河部左次郎

宝曆七年七月十日書及家傳。小書信明和二年九月廿日死二十八歳葬地同上

正芳

河部左次郎
河部左次郎

留卷

明和二年十二月十日書及家傳。小書信安

永九子年十二月廿日初見。天明六年十二月二十日。同日七歳年九月廿日。大の時少く二。寛政元年二月十日。同日七歳年四月廿日。陰暦。是日。反相。八月八歳年十二月二十日。納戸。同日。九月二十日。西九勤。

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

祢田御厨

安倍姓

高二百俵

家紋 丸内丸羽 石持内馬柄

河部

河部勘九郎 宗重三男

重正

河部六太夫

万治三子年二月三日 祢田御厨へ新親
石出丸小十人 寛文六年四月
納戸役。延宝六年日所組改唐番三
百俵。同八年十月

淨徳院教誨西丸中口新組清長
組改題名後○天保三壬子六月新○
貞享四年卯年正月十七日死六十一歳葬地
小島若仁子子孫
同

正氏

河部十郎左衛門 九門 水助

貞享四年卯年七月十日安○
年十一月十八日元方納戸。享保四年

十二月廿五日。納戸組次。同女卯年六月
廿八日西丸納戸改。日年十二月十六日
○元文乙卯年二月廿五日。納戸改。○
曆又壬子。六月廿八日。元文乙卯年二月
廿五日。納戸改。○
土巳年七月廿日。納戸改。○
年十二月十日。老免。寄合。○
○日二戌年八月十日。改仕。楊信。○
三百後。○日二亥年十一月十二日。死
八十九歳。葬地。同上。

実西村志信庸外男

河部久重

庄太郎

正泰

享保十二申年十二月廿七^日子。元文二
三年十一月初八日。宝曆十二年九月廿八日
中書院^{明和}。用^{明和}二戌子八月十六日。安永〇
安永八申年四月日光。神社系信守。
同八亥年六月八日^{後有身馬}。元文二年^{後有身馬}。同日

中正

河部久門

明和九年子九月朔。初是。安永八亥年
六月朔日中里。四月辰委。雨^本。
上^{後有身馬}。同年九月子。天^{後有身馬}。三
亥年四月九日。吹上。初上。後^{後有身馬}。反物。同
又巳年二月廿七。評定所。初及儒者。寛
政二戌子十二月八日。初及儒者。一統。小書。信。

同文丑年四月廿二日改仕

美井上多門利貞男

河部吉次郎

若七郎

正雄

高二百俵

寛政四年六月廿七日吉子。同文丑年
四月廿二日改仕。同八年十月廿二日改仕。
九月廿二日改仕。同九年十月廿二日改仕。
同十年九月廿二日改仕。同十一年九月廿二日改仕。
同十二年九月廿二日改仕。同十三年九月廿二日改仕。
同十四年九月廿二日改仕。同十五年九月廿二日改仕。
同十六年九月廿二日改仕。同十七年九月廿二日改仕。
同十八年九月廿二日改仕。同十九年九月廿二日改仕。
同二十年九月廿二日改仕。同二十一年九月廿二日改仕。
同二十二年九月廿二日改仕。同二十三年九月廿二日改仕。
同二十四年九月廿二日改仕。同二十五年九月廿二日改仕。
同二十六年九月廿二日改仕。同二十七年九月廿二日改仕。
同二十八年九月廿二日改仕。同二十九年九月廿二日改仕。
同三十年九月廿二日改仕。同三十一年九月廿二日改仕。
同三十二年九月廿二日改仕。同三十三年九月廿二日改仕。
同三十四年九月廿二日改仕。同三十五年九月廿二日改仕。
同三十六年九月廿二日改仕。同三十七年九月廿二日改仕。
同三十八年九月廿二日改仕。同三十九年九月廿二日改仕。
同四十年九月廿二日改仕。同四十一年九月廿二日改仕。
同四十二年九月廿二日改仕。同四十三年九月廿二日改仕。
同四十四年九月廿二日改仕。同四十五年九月廿二日改仕。
同四十六年九月廿二日改仕。同四十七年九月廿二日改仕。
同四十八年九月廿二日改仕。同四十九年九月廿二日改仕。
同五十年九月廿二日改仕。同五十一年九月廿二日改仕。
同五十二年九月廿二日改仕。同五十三年九月廿二日改仕。
同五十四年九月廿二日改仕。同五十五年九月廿二日改仕。
同五十六年九月廿二日改仕。同五十七年九月廿二日改仕。
同五十八年九月廿二日改仕。同五十九年九月廿二日改仕。
同六十年九月廿二日改仕。同六十一年九月廿二日改仕。
同六十二年九月廿二日改仕。同六十三年九月廿二日改仕。
同六十四年九月廿二日改仕。同六十五年九月廿二日改仕。
同六十六年九月廿二日改仕。同六十七年九月廿二日改仕。
同六十八年九月廿二日改仕。同六十九年九月廿二日改仕。
同七十年九月廿二日改仕。同七十一年九月廿二日改仕。
同七十二年九月廿二日改仕。同七十三年九月廿二日改仕。
同七十四年九月廿二日改仕。同七十五年九月廿二日改仕。
同七十六年九月廿二日改仕。同七十七年九月廿二日改仕。
同七十八年九月廿二日改仕。同七十九年九月廿二日改仕。
同八十年九月廿二日改仕。同八十一年九月廿二日改仕。
同八十二年九月廿二日改仕。同八十三年九月廿二日改仕。
同八十四年九月廿二日改仕。同八十五年九月廿二日改仕。
同八十六年九月廿二日改仕。同八十七年九月廿二日改仕。
同八十八年九月廿二日改仕。同八十九年九月廿二日改仕。
同九十年九月廿二日改仕。同九十一年九月廿二日改仕。
同九十二年九月廿二日改仕。同九十三年九月廿二日改仕。
同九十四年九月廿二日改仕。同九十五年九月廿二日改仕。
同九十六年九月廿二日改仕。同九十七年九月廿二日改仕。
同九十八年九月廿二日改仕。同九十九年九月廿二日改仕。
同百年九月廿二日改仕。

物二

台徳院

河部姓

高百俵之持

家紋

九月廿二日

河部

之祖石解

河部孫左衛門

某

台徳院御沖代奉仕。寛永十八己年六月廿日
死幼之栄松院奉仕

貞醜

河部彌次左衛門

寛永十八年、奉旨武蔵守、一列、於
馬料百石賜り、と、原、不、引、暫、百、俵
之、人、枝、扶、給、也、と、り、の、少、位、目、付、の、由、廣、補
、流、敷、の、天、和、二、重、年、七、月、廿、二、日、死、葬、地
同上

貞恭

冥三花飛騨守
出口自安村村男

河部仁左衛門

天和二重年、由、廣、大、と、高、の、由、位、目、付
、玉、永、四、重、年、二、月、廿、二、日、死、葬、地、同、上

貞諒

冥松田孫左衛門某男

河部弥次左衛門

至永四重年十二月十九日、解、若、名、也
、二、百、年、六、月、七、日、初、葉、山、火、之、番、同、七、寅

年十二月廿八日病免。寛保元貞年七月
十六日死葬地同上

右位少将
美治守孫右衛門兼男

貞顯

河部孫十郎

寛保元貞年十月二十日表子家持。同
年十二月廿四日表子。同。延享二廿年
二月晦日病免。寛延元貞年九月廿日
深番。同。同。年十二月十二日

沛基所沛速。用。至曆十辰年四月廿一日

少度表。少。表。活。樹。り。同。土。巳。年。七。月。廿。日
安祥院。及。用。之。○。西。永。六。貞。年。四。月。八。日
死。葬。地。同。上

伊之助
美村井六右卫門兼節男

河部孫十郎

令次郎

永貞

了。百。儀。少。人。技。持

寶曆十三年年十月廿六日表子。同。和。同
三年同九月廿日清水殿大番。安永六

百年^七四月八日^陸改^陸大番^陸也。同年八月
朔日^陸清水^陸大番。同八月^陸年^陸四月十八日
之^陸改^陸也。天^陸元^陸年^陸六月^陸十日^陸之^陸改^陸也。
○寛政元^陸自^陸年^陸六月^陸十日^陸廣^陸交^陸用^陸人^陸助^陸。
同^陸年^陸六月^陸八^陸日^陸廣^陸交^陸用^陸人^陸。同^陸七^陸卯^陸年^陸
八月^陸廿^陸九^陸日^陸負^陸章^陸院^陸教^陸附^陸。同^陸八^陸辰^陸年^陸
四月^陸廿^陸七日^陸漆^陸州^陸初^陸州^陸辰^陸合^陸若^陸年^陸高^陸元
見^陸分^陸派^陸七^陸教^陸。同^陸年^陸十月^陸廿^陸八^陸日^陸日^陸亦^陸用^陸連
元^陸班^陸小^陸十^陸人^陸組^陸之^陸之^陸令^陸名^陸之^陸也。同^陸十

十年^陸五月^陸十日^陸漆^陸州^陸初^陸州^陸辰^陸合^陸若^陸年^陸高^陸元
二〇日^陸年^陸

教^陸之^陸助^陸教^陸清^陸水^陸亦^陸用^陸至^陸交^陸沙^陸伯^陸辰^陸亦^陸用
二〇日^陸年^陸十月^陸廿^陸八^陸日^陸日^陸亦^陸用^陸連^陸三^陸教^陸

忠貞

河^陸初^陸孫^陸六^陸 助^陸長^陸

寛^陸政^陸九^陸巳^陸年^陸二月^陸九^陸日^陸初^陸見^陸

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

東照公御代

友東村
河部信

守子名
表紋細輪
九月一日

上河部信
入

大織冠藤足太代栗田関白道兼
出く河部四郎右衛門尉
次巻子四郎右衛門尉

重真

文右政十六歳より

河部信四郎右衛門尉
善右衛門

東照公一身任教養の陣借奉戦功あり天正

1
年中右政令と多り大久保七郎右衛門
右世とせふ左列二侯の城と守り後赤
子相とせふ城と守りり伊辞退り上りふ
右首免ありふの代右世長子四郎右衛門と
推し伊勢國へ立退り父子相地ふあり
し同平郎右衛門の城別ちく討死とてその後
右政令列小治り上和田小用辰其のら
少首免あり○重真を備せ飛騨守
氏脚小遣所へ奥州小位と其城備せ

東照所へ慶長十一年二月伏見へ
とみく

東照所へ石公と建拜福○元和元年
大坂の陣の事少り以三侯率へ出陣○
日年六月七日大坂の陣供奉の日二居
正月に後府少とみく令と後上徳公
の國の内米地五百石り 沖島守と物り
○日八成守十二月馬と干務日心三千人出陣
○寛永元年九月廿七日加積五百石○

貞永二年二月廿八日死。年七。葬牛久保。是
寺。葬。

重信

河^信部四郎玄清 源左衛門

慶長十七子年。初名信。在^信。日定永
六。七年九月^月。初^信。日年。大^信。由^信。組^信。以
。日七十年。乃^信。法^信。國^信。上^信。德^信。國^信。少^信。く^信。五^信。百^信。石^信。
日八。未^信。年^信。七^信。月^信。三^信。日^信。乃^信。法^信。國^信。上^信。德^信。國^信。少^信。く^信。五^信。百^信。石^信。

揚^信。り^信。し^信。五^信。百^信。石^信。又^信。重^信。真^信。形^信。少^信。り^信。二^信。男^信。河^信。部^信。
八^信。三^信。百^信。石^信。揚^信。り^信。し^信。五^信。百^信。石^信。又^信。重^信。真^信。形^信。少^信。り^信。二^信。男^信。河^信。部^信。
加^信。保^信。五^信。百^信。石^信。重^信。信^信。二^信。男^信。河^信。部^信。八^信。三^信。百^信。石^信。
二^信。男^信。河^信。部^信。八^信。三^信。百^信。石^信。重^信。信^信。二^信。男^信。河^信。部^信。八^信。三^信。百^信。石^信。
正^信。月^信。廿^信。二^信。日^信。乃^信。法^信。國^信。上^信。德^信。國^信。少^信。く^信。五^信。百^信。石^信。

定改

河^信部四郎玄清 四郎玄清

慶安元年六月十日。初^信。日^信。乃^信。法^信。國^信。上^信。德^信。國^信。少^信。く^信。五^信。百^信。石^信。

十二月十日。夜。同日三。宣。二月廿七日。水
小性組。明曆三年七月廿四。死。千
二。某。某。地。日。三。

重舊

河部信重之助

慶安二年。正月廿五日。分地。明曆二年
年。同姓河部八。忠重。胡。養。子。と。る。不
り。分。地。是。上。

次紀

書式

河部信重之助 河部信重之助

明曆三年。十二月十日。夜。宣。是。宣。大
正。年。五月十日。水。小性組。宣。永。六。年。十
月。廿。日。出。世。國。松。以。國。山。員。村。山。部。日。七
宣。年。同。八月十日。均。福。西。德。元。卯。年。
十月。初。日。山。部。子。山。部。地。改。日。月。廿。日。布。告。
日。三。正。年。八月廿九。火。附。盜。賊。改。加。改。日。同。

巳午年十二月廿五日。薩摩令之。日。巳午年
 八月十日。加波。日。巳午年。八月十日。
 有章院。水。至。增。勤。日。巳午年。二月。巳午年。
 薩摩。時。後。三。日。巳午年。四月。巳午年。
 寺。日。巳午年。四月。巳午年。巳午年。巳午年。
 藝。地。同。上。

次冬

実阿久忠平書二男
 河勢河所書信 二之忠

至永元申年七月。其。子。日。巳午年。
 甲。日。巳午年。巳午年。巳午年。巳午年。
 病。日。巳午年。巳午年。巳午年。巳午年。
 年。二月。巳午年。巳午年。巳午年。巳午年。
 甲。日。巳午年。巳午年。巳午年。巳午年。

次當

河勢河所書信 万之忠

名。又。二。巳午年。七月。巳午年。巳午年。巳午年。巳午年。

其方小世組。寛延二己子九月十九。死年
以兼藤地日三

次豊

次次冬二男

寛延二己子九月十九。考及父。同日年十一月
之。考及母。同日二平年。考及父。同日年十一月。
五曆九年卯年十二月廿六。病死。以初八
卯年八月廿六。死。以初九兼藤地日三

次福

直陣

河那四所長

八郎

以初四己子。考及父。同日卯年
正月。考及母。同日卯年正月。考及父。同日卯年
以初四己子。考及父。同日卯年正月。考及母。同日卯年
以兼藤地日三

大猷院

阿久澤本高之七拾後女持

源姓

家紋二引須山

紋五七桐

是者康曆之頃從
村上帝柳井刑部
下給有

中乃柳井之祖至千修乃在須山
母方住於加賀國津之井里須山
之根愛久澤之邑後改桃井号
愛久澤文明年中與長尾家相

源
五

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

當時移于野為深澤城尚以
住女淵之城又改愛久澤阿久
澤認足利新判官義康後汎
桃井修理亮近尚七代河以澤
八尾也永行嫡男

長右衛門

行次

寬永十年山内德高七拾後文
林坊湯主長因組氏之旨之拾後

正慶下○延寶七年六月七日死
七拾九年淡草大仙寺葬

治右衛門

行次

安永七年家督御徒自才毛
後即廣浦作者○享保元年
育八見甥之續名治右衛門才
阿久澤強更元男阿久澤治右
行和養子相續家督治右

元文元年二月七日北行和行統
養子任後行統實子孫八年
行忠出七年須養子家督保南
相勤病死男子是公身女御出院
秀方水野是父也男治島行完
聲養子家督出統身七之後
富士見御出病者病免也重信
寛政十一年七月三日陽右實子
惣領河久澤和重行篤家督

孫太夫

行廣

万治元年二月六日北行
七拾後交枝也○延宝三年六月
十日北行組以之百之拾後以成下
○正徳元年六月廿七日北行
同寺一

長壽

廣保

正德元年家督○享保十六年
六月十九日死實子惣領所久澤
長久郎行保家督同二十年有
六月死男子○係才之續若河久
吉屋行梅惣領所久澤孫帝
行光養子家督出徒自身實曆
三年一死男子○又方從中遠之
續若河孫太弟行篤惣領所
久澤孫若河養子家督同生見

治寶永五年之後助定之存出役
不相慈身小當活入寛政三年
四月三日不布之頃之○北果藤
家形級

行廣四男

吉屋

行梅

寶永五年六月廿日御徒

石上之七指依之人杖内○宝曆
二年九月廿二日御徒組次○同

六年三月四日死六十八歳同
寺一葬

行明

吉倉

實松平敬承子家承不詳父存男
寶曆五年十月卒有養父
吉倉行持跡正正出○
六年十月八日死四十三歳同寺
一葬

善藏

行正

明和六年十月卒自出從父吉倉
行明跡正正出○安永六年
七月廿二日死二十一歳同寺葬

六年次 始年次

義守

始成富
實 友田忠彦

五

一 安永六年九月廿二日水陸長久
 河久澤台花御座 正出 ○天
 六年十月廿日御事方當分
 役役 ○同六年八月廿日定役役
 ○寛政四年四月廿七日定能助定
 ○同九年十月廿八日御助定 ○
 同十年九月廿日伏後事以御
 組次

一 年十月廿日御事方當分
 御助定御用掛 ○同七年四月
 廿日右御用御新親御茶屋出
 束骨打身於真御後欠浪夜
 下
 一 同七年六月十日右御用無帶
 御助身者少後欠白銀七枚揚
 一 同年十月廿四日駿州久能山
 御宮向具外 駿府室基院共

一 許使倭濟用○同古日濟帳白
浪拾枚揚

一 同年七月九日右許用無帶相
勤身為沙獲欠白浪拾枚以下

一 同年十月五日

一 禁裏所方其外許普濟濟用
掛り同古有本日許帳銀拾枚揚
同古有許帳出之

一 實政元年十月五日

一 禁裏所所方許造管許入用九核
出來之ハ吟味行也格別出積之
之當是之許獲欠浪枚揚

一 同二年十月八日新造

一 内裡所造管許用許獲欠浪
枚揚

一 同日

一 仙洞所所許普濟濟用沙獲欠
浪三枚揚

仙洞後所同所附相勤為所
獲次張貳枚湯

禁裡新造

内裡券

仙洞新所所...
萬子頂戴之

同三年正月八日右所用無所
相勤所府同月十九日

禁裏所所方之外所...

用相勤...
湯

同日右所用格別出務相勤...
差別後為所獲次浪七枚湯

同年正月十四日光神橋掛也
深砂王社其外所依後并川越
仙波

所官諸堂社其外三芳野大神
社新田大光院

類彼地仕之分仕三下出来形道
五會作振_三修及右所用_三常
相勤同十月廿日常府
同年十月六日日光
_一 市官具外市使後江_三所用
取扱_三作身
同年十月廿九日仙波
市官向其外市使後_三所用相勤
身復限拾扱場

同年十月廿四日日光
市官向其外市使後_三所用江_三
取扱_三作身_三留限七扱場
同六年十月六日日光
市官市靈屋其外市使後_三
二度目三度目市使後_三所目覽
立會市用同三月十七日右為市
取金貳拾五場同月十六日
出立右市用無滞相勤同年

十一月廿二日帰府

同七年正月廿八日先所使借
所用當年者以之掛立 作
所子苗銀七枚揚

同年正月廿六日濃別執別
川部高陵所用同月廿九日
右為治眼金貳拾支揚同八
年正月十二日江戶出立右所用
無滞古動同年四月廿二日帰府

右川所用中日先江戶掛兼
帶相勤

同八年四月廿六日日光

所宮所用靈全向所使借見分
目論見所用同五月十三日江戶出立

同年七月廿八日帰府

同年八月廿九日濃別執別川
所宮所用靈全向所使借見分
同九年正月日光

一 清宮 清靈金 清飲後 清飲後
牙二月廿五日 江戶出之 同十月又
四月 歸府

一 清勘定 相勤 同 年 上 月 曾
日光

一 清宮 清靈金 清飲後 清用 門
續相勤

一 同十年 正月 九日 日光
清宮 清靈金 清飲後 清用

為 清服 金三枚 湯 同 月 江戶 出之

同八日 日光 表 山 聖 九日

清宮 洋 禮

神酒 頂 戴 仕 右 清飲後 清用 葉

同 年 二 月 五 日

遷 宮 座 相 飲 同 月 九 日 歸 府

同 年 同 月 五 日 右 清用 相 飲 牙

為 清 獲 金 一 枚 下

同 年 同 月 八 日 此 度 日 光 清飲

借出米形格別宜御入用向茂
約取斗下之御年當道行在
御備悅之御事骨折公儀
思召公儀

上意之旨

一 同年十一月三日赤勝之助相
勅信

一 同年十一月廿九日老諸堂社法
候後御用江掛

一 同十年九月廿日依渡奉以之配組
以同十月十日於雁之石西津椽
津目見同日右同新舟於御備
之同時股貳金一枚

一 同年十月廿日依別表
為引紙料金七拾五文

一 同年十一月九日養祖母妻子之違
江中表出之十一月廿八日依別表
者

Faint vertical text on the right page, likely bleed-through from the reverse side.

有德流後河代

阿久澤

高七拾後交發持

源姓

家改三洲山



九條允大官師輔之男師高太湯

國賜也久澤之郡長後中久澤

判官師之云志久澤向洲山土師

上云系之土師内源之云形也

後之源姓也

帝下賜史分九州源氏稱家效例
山等聖人深判官師子河合
對馬子道定道道流印國
深澤之聖對子道定入道道流
介阿字改右道流八代書
直盛美良子

忠孝傳始末物

直寫

實松平在幕大夫家奉聖信傳今保

信名傳物

高孫次男

元文七年閏七月八日酉九水能

浪人今亦托入

信信院致西九為入公長實保元年

七月十八日清草川於清成先水

上院相勤出帷子洋領○史系

元年七月十六日於清成先水

上院相勤出帷子洋領○史曆

二年三月廿六日由化車方定後彼

同章丁酉九月表即度及也依儀用
同年十月五日廢銀五枚江領
同四年六月二日山作事下奉行
同年四月十六日夜山作事定卷
泊相動村才盜人之儀同九年
十月廿七日通卷云 儀同十年
四月四日沖免石乞相動同年
十月廿三日泊池山王湯修儀天
儀寺主松山山修儀山用廢銀七

收洋領同年增上寺是申寺移
器系經卷速之亦用同十年
四月十九日儀張拾枚洋領○
同十年增上寺

崇源院敷

天英院敷 御靈金由儀儀備用○同
十二年三月二日儀張拾枚洋領
同十年增上寺

知恩院宮中學校御取建御用同年

八月二日復銀七枚同年增寺
八月廿七日復金或枚揚○同
十三年增上寺

安國敎所宮中亦以修傳所用○
明和元年十月十九日復銀
拾枚同平增上寺

有章院敎所廟法修傳所用同
年十月廿日復銀拾枚同年

十月廿六日漆奉行○同八年

十月廿日

心親院敎所家送^夫部法事所用

復銀拾枚○安永四年九月寺

日光山

所宮所靈金所道具類見方

就所用能時後二年領同年青

朔日歸府

所目是同年十月十九日日光山

御宮 伊靈金下道具類沙帳
後御用沙帳内版式洋領○同
六年四月七日席端○同六年
正月廿六日久能山御宮正近
宮古道具沙用取版令我同
年六月七日富士見沙寶花首
之以○同八年三月廿九日
之兼牛込養老院之葬

也九席

直連^己

寶濱田之次席順之次男
昭和三年十月八日養子○同年
十月初見○同八年十月十日
死武拾九回寺一葬

女次席

直矢^{千力}

寶濱田之次席定常次男



安永元年七月廿九日御年養子
同年七月廿六日家督小宮高茂○同
九年七月廿六日御年養子
九年七月廿六日御年養子

世助

直内

寛政九年七月廿六日家督小宮
高茂



